

JA いしかり

2019

1月号

Vol.358



12P

新コーナー

小さな農家の大きな夢
~YUMEYASAI~

表紙：平成7年生まれ
年女の佐々木莉子職員（花畔支店）

新年明けましておめでとうございます



石狩市農業協同組合
代表理事組合長 中村 武史

組合員の皆様におかれましては、ご健勝にて輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中はJA事業全般に特段のご理解とご協力を賜り、厚く感謝とお礼を申し上げます。さて、昨年の石狩市農業は春の融雪も比較的早く進み、春作業は順調に進んだものの5月後半から低温傾向となり、その後の長雨、そして干ばつと続き、農作物の栽培には非常に苦勞させられた年でありました。そして9月には、台風21号の襲来により農作物や農業施設に甚大な被害を受け、さらにその後の北海道胆振東部地震により多くの犠牲者が出た事は誠に痛ましく、心からお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興を祈念するところであります。

また地震の影響による大規模停電では、当農協施設も稼働できず、組合員皆様にはご不便をおかけした事を改めてお詫び申し上げます。今後は停電対策も含め、検討していきます。農作物の作況につきましては、秋・春小麦共に低温・長雨の影響を受け、収量が減少し計画を大きく下回りました。また、水稲も石狩管内の作況指数は93となりましたが、実態としては90以下という状況を大きく下回り、大変残念な結果となっております。反面、青果につきましては、悪天候の影響を受けながらも、全体的に価格に恵まれ、ほぼ計画額を達成することができました。特にブロッコリーは当農協の生産作物では初めて販売額が4億円を突破する快挙となりました。ただ一方でサヤエンドウなど一部作物では悪天候の影響で大きく販売額を落とし、今後の安定生産に向けての取り組みが課題となりました。

また、北石狩農協との事業連携として人參の共同採果に取り組み、新たな販路拡大や撰果パートの確保に繋げる効果も出ましたし、特に初めて取り組んだ外国人技能実習生の受け入れでは、心配された言葉や生活習慣の違いは大きな問題とならず、撰果作業の効率化に貢献しました。さて、農政をめぐる状況としては、9月に日米両政府が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始を突然発表しました。米国側からはTPP以上の関税引き下げを求められる恐れもあるため、今後とも動向をしっかりと注視するとともに、これまでの国会決議をしっかりと守るよう、政府に要請していかねばなりません。

また、現在道議会では主要農作物種子法廃止にかわる新たな道条例の制定に向けた取り組みが行われております。命の根源である食糧を外国資本に牛耳られないためにも、国内でしっかりと再生産できる根拠とするべく早期の条例化を求めてまいります。また、国連は本年2019年から2028年までの10年間を「家族農業の10年」と採択し、決定しました。食のグローバル化や大規模化が言われておりますが、全世界の食糧の80%は家族農業によって生産されており、その役割は非常に大きなものがあります。家族農業中心の日本型農業を今一度見つめ直し、その役割が再評価されるきっかけとなる事を期待するものであります。

近年は気象変動が激しく、農作物の栽培に苦勞する年が続いておりますが、本年こそ、安定した営農ができるよう祈念すると共に、組合員皆様の負託にしっかりと応えられるよう役員一同、JA事業に全力で取り組んでまいりますので、尚一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。新しい年号となる本年が豊穡の秋を迎え、実り多い一年とし上げ年頭のご挨拶いたします。



石狩市農業協同組合
青年部 部長 山内 克彦

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。日頃より当JA青年部活動に対しまして特段のご理解やご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年とは胆振東部地震をはじめとする地震災害、台風上陸による被害、長雨や天候不順など非常に災害の多い年であり被災された組合員皆様にお見舞い申し上げますとともに、今こそ協同の精神をもって共にこの苦難を乗り越えたいと青年部一同考えております。さて、昨年の事業を振り返りますと、6月のソフトボール大会では道央恵庭にて汗を流し、部員間の親睦と他地区青年部との交流を図りました。視察研修では苫小牧で日本ニユーホランドを見学、7月の幼P連の食育事業では農機具の展示や収穫体験を通じて農業の魅力が伝えられたかと思えます。石狩地区農協青年部合同で行う後志石狩研修会での実績発表大会では最優秀賞

を獲得し、全道JA青年部大会でも優秀賞を受賞しております。また平成23年度より続いているサツマイモ事業では、今年には生食用として「鳴門金時」を栽培して、とれのさとでの店頭販売を行い、そのサツマイモの取り組みがH.T.B放送のテレビ番組「イチオシモーニング」で取り上げられました。新たな取り組みとしては、近年注目を浴びている「農福連携」を行い、新規労働力の確保に向け装いも新たにするなど、大きな躍進を遂げた年であったと思えます。さて、昨今の農業情勢を振り返るに、米国との物品貿易協定、EUとの経済連携協定、TPP批准国10カ国との自由貿易など非常に厳しい情勢であります。国外からの輸入により国内産業が壊滅的な被害を蒙るとの見解が示されており、国内外の不安や農業の未来に対する不安など様々な懸念材料がございます。また異常気象が続く天候、市場価格の不安定さなど、農業のみならず社会全体がまさに転換期であり次世代へ繋げるための活路を見出すべく、部員ともども試行錯誤していきたいと考えています。最後にありますが、新年が皆様にとって実りある良き年でありますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



平成31年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい平成31年の新年を迎えられたものとお心よりお慶び申し上げます。皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、7月の豪雨や台風21号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の損壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。

さらに9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、尊い命が失われるとともに、農畜産物や農業施設等に未曾有の被害が発生し、道内全域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やJAグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じてしまいました。

現在、JAグループ北海道を挙げて、一日も早い、復興・復興に向け、全力でその支援対策に取り組んでいるところであります。

作目別の作況をみますと、米は、作況指数が90の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、てん菜は、収量・糖度も概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、今後は飼料作物の品質低下等による生乳生産への影響が懸念されているところ

国際貿易交渉については、9月27日、日米両国が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始に合意したことが発表されました。

今後、TAG交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があるため、その動向を注視していくとともに、農畜産物を犠牲にしない毅然とした対応を求めてまいります。

さて、昨年11月には、第29回JA北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」の加速に取り組むとともに、「サポーターづくり」の活動拡大として、地域を共に支える准組合員の皆様のご意見の把握に、これまで以上に取り組むことを決議しました。

また、協同組合の原点を、あらためて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討してまいります。

そして、この3年間の実践期間のうちに、2019年5月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、2021年3月には「准組合員利用規制の調査期限」を迎えますが、JAグループ北海道としては、改革は自ら行うものとして、「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現に向けて、JAグループ一丸となって、大会決議事項の実践を通じた自己改革を進めてまいりたいと考えております。

結びになりますが、今年の干支は己亥(つちのとい)です。亥には、「無病息災」や「安定した状態」で始動を待つ「準備期間」の意味があるとのことであります。

今年はこの亥年にあやかり、災害がなく、そして組合員の苦勞が報われる実り多い豊穡の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶いたします。



新年 明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族で明るい新年のスタートを迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと6月下旬の長雨から始まり、台風の影響により農産物への被害をもたらし、胆振東部地震による今まで経験したことのない震度と停電(ブラックアウト)の影響で生活にも支障を及ぼし、普段の生活が如何に有り難いかを思い知らされました。備えは普段からきちんとしておかなければなりません。そして、このような事態が生じた時こそ助け合い、協力し合う事が本当に大事な事だと感じさせられました。

さて、女性部の事業を振り返りますと「まるごとフェスタ2018」は残念ながら中止になってしまいましたが、6月には千歳方面への視察研修を開催し、「航空自衛隊千歳基地の見学」「花ロード恵庭」「ゆめちからテラス」等



石狩市農業協同組合
女性部 部長 川崎 寿子

見学し、参加された部員の皆様は、農作業で忙しい中、束の間のひとときながらリフレッシュできたのではないかと思います。8月には市内幼稚園児と父母を対象にした食育バスツアーが開催され、私共役員一同で地場産野菜をふんだんに使って作ったカレーライスは参加された方々に大変好評でした。加工事業では、10月にももち、コーンスープは部員の負担を軽減するため繁忙期を避けた11月下旬に製造し、地物市場とれのさにて販売しております。12月には内部研修として味噌造りを行うなど、部員減少や高齢化と言った課題がある中、部員皆様のご協力により事業を進めることができました。今後も、現状の部員で負担にならない活動と少しでも地域に貢献できるように、人とのつながりを大切にしながら事業に取り組みで行きたいと考えており、皆様のご理解とご協力を宜しく願っています。

最後になりますが、新しい一年が皆様にとって健康で輝かしい一年でありますようにご祈念し、新年のご挨拶いたします。



4月号 直売出荷者協議会道外視察



3月号
農事組合長会議



2月号
とれのさと
新春お年玉セール



5月号 とれのさとスプリングセール



7月号 学校給食に金賞受賞記念のゆめびりが贈呈



6月号 イトーヨーカドー石狩フェア



12月号 青年部サツマイモ対面販売



12月号 資産運用部会道外視察



2018年を

振り返って

8月号 グリーンサポーター向け講習



9月号 親子で楽しむバスツアー



10月号 北海道胆振東部地震

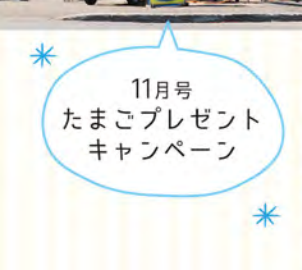


5月号 女性部30周年記念式典

6月号
アスパラ共撰
スタート



11月号
たまごプレゼント
キャンペーン



石狩市農業協同組合女性部設立30周年記念式典



*

時代に即した組織に

JA北海道大会開催!!

*



11月13日、札幌コンベンションセンターで第29回JA北海道大会が開催されました。この大会は、JAグループ北海道が3年に1度、今後の取り組みべき方向性を示すもので全道のJAや中央会・連合会の役員・青年部・女性部役員など約2,400名が参集し、

当JAからも役員・青年部員・女性部員併せて20名が参加しました。

大会前には、JAグループ北海道が提供するテレビ番組「あぐり王国北海道NEXT」の放送500回記念プレゼンテーションが披露されました。番組に出演する森崎博之さんが登場して、共演した子どもが苦手な野菜を食べられるようになったり、小学生だった子が大きくなって農業や農業関連の仕事に興味を持ってくれることがとても嬉しいと話がありました。

続いて、「新たな協同組合の価値創造」をテーマに組合員との関係強化や協同組合間の連携についてパネルディスカッションが行われました。

*



あぐり王国でお馴染みの
森崎博之さん

*



大会決議として、《第29回JA北海道大会のメインテーマである『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現に向けた各議案について、組合員・JA・連合会・中央会が各役割を再確認するとともに、協同の力と総合力をフルに発揮し、一丸となって決議事項の実践を通じた自己改革に取り組みものとする。また、決議事項の実践内容をグループ内外に発信すること、さらには農業・JA・協同組合の意義や価値を発信することで、北海道550万人から信頼されるJAグループを目指すものとする》が、また、北海道地震など災害からの復旧・復興に向け特別決議も採択されました。

当JAも大会決議に向けた取り組みを今後実践してまいります。

生振第7 吉野謙治氏・生振第2 鈴木和雄氏
産業経済功労賞受賞



11月27日、石狩市総合保健福祉センターで石狩市産業経済功労賞授賞式が行われ、生振地区の吉野謙治さんと鈴木和雄さんが受賞されました。吉野謙治さんは、当JAの理事として9年間（内4年間は専務理事）、石狩市農業委員会委員として6年間、また、旧石狩地区農業共済組合（現みなみ北海道農業共済組合）の損害評価委員として13年余りご尽力をいただき、その間、西部地区（札幌市・石狩市）損害評価委員会の会長等を歴任されるとともに、石狩管内の農烟作部会の副会長を3年間務められ地域農業の発展と振興に寄与されました。

鈴木和雄さんは、当JAの理事として9年間（内3年間は営農経済委員長）、石狩市農業委員会委員として3年間、当JA大根部会役員として14年間（内10年間は部会長）の永きにわたり各役職を務められ、良質な「いしかり大根」の安定生産に尽力されるとともに、石狩市農業の発展に大変貢献されました。お二人の永年にわたる功労が認められ、晴れの受賞となりました。

新穀感謝祭



11月21日、石狩八幡神社で役員15名が参拝し新穀感謝祭を行いました。神官の祝詞奏上の後に参列者が玉串奉奠を捧げ、厳かに五穀豊穰、組合員皆様の家内安全と無病息災を祈願しました。平成30年は春先からの天候不順に加え、9月には大きな台風と北海道胆振東部地震に見舞われ、当JA管内でも罹災が発生するなど大変厳しい年となりました。来たる新年が組合員皆様にとってより良き一年でありますように。

農作業労働力確保の調査で 富良野市が当JAを視察



平成30年11月22日、富良野市農政審議会と同農林課職員の総勢13名が農作業パート等の労働力確保に係る調査の為、当JAを訪れました。これは富良野市が5年に一度見直しをしている「新たな富良野市農業及び農村基本計画」の策定に向けての調査が目的となります。

富良野市農政審議会は、富良野市内農業者、JAふらの、上川農業改良普及センター、北海道大学、富良野金融協会にて構成され、同計画の策定に対し「労働力不足」が一番の課題にあげられ、現在の野菜ブランドを今後も維持するためにも労働力確保対策のあり方を検討しているそうです。

当JAが取り組んでいる無料職業紹介事業「グリーンサポーター」等の取組状況と改善対策について、当JA大田営農部長及び白倉営農課長より説明を行い、質疑応答では苦労話も加わり、視察予定時間を少しオーバーするほど熱心に議論しました。

富良野市は農業パート対策では先進地であり、今後情報交換を行い共に改善を図っていく約束を交わして意見交換を終えました。

四地区合同JA理事研修会



11月20日、年に一度開催されるJA理事の資質向上と親睦を兼ねた道南・後志・日胆・石狩地区合同のJA理事研修会が250名程参加の下、札幌市で行われました。

開会挨拶の後、龍谷大学農学部教授の石田正昭さんから「改正農協法とJAの自己改革」組合員問題への対応」と題して、農協改革のタイムスケジュールや非常勤役員の役割と責任や准組合員との交流と協同組合間連携について講演がありました。次に前農林水産省農村振興局長の荒川隆さんから「地域の中核組織・JAへの期待」産業政策と地域政策の担い手として」と題して、今までの産業政策と地域政策や今後の展開方策とJAへの期待について講演があり、それぞれ喫緊の課題でもあることから理事全員が熱心に聞き入っていました。講演終了後の懇親会では他JAと情報交換するなど大変意義ある研修となりました。

第8回



決勝大会

11月17日、美味しいお米日本一を決める「第8回米1グランプリ in らんこし」の決勝大会が蘭越町で行われました。今年度の米振興会の視察で蘭越町の育苗センターを訪問した際に金町長から「米1グランプリ」の取り組みについてもご説明頂いたご縁で是非参加しようと思われたいところ、当JAからは5名が出品しました。

全国から出品された290品のお米の中から予選通過を果たしたわずか30品の中に、高岡地区の増田崇紘さんの「ななつぼし」が選ばれ、決勝大会（予選・準決勝・決勝）に挑みました。審査員14名（一般審査員6名含）の食べ比べによる厳正な審査のもと、見事「準決勝進出」を果たし「銀賞」を受賞しました。グランプリには洞爺湖町生産者の「ゆめぴりか」が選ばれ、洞爺湖町では初めての受賞となりました。



銀賞の増田さんは「自分のお米がどの程度評価されるのか知りたくて出品しました。自分の米作りが評価されたことを非常に嬉しく思っています。決勝進出は逃しましたが、過去に「ななつぼし」でのグランプリ受賞はないと聞いていたので、そこにこだわって来年以降も是非出品したいと思っています。この大会を通して石狩産米の付加価値向上と産地全体のPRに繋がればと思います。」とのことでした。グランプリ受賞を目指し次年度以降もたくさん皆様の出品をお待ちしています。



北のアメ横
今年も大賑わい!!

11月16〜18日、アケス札幌で北のアメ横2018が開催されました。

道内の厳選された品物がズラリと並び、当JAからは新鮮野菜やいしかり漬けの対面販売、じゃがいもと玉ねぎの詰め放題を行いました。

初日にはテレビ中継も多く入り、NHKのニュースで取り上げられたり、STVの生中継「どさんこワイド」では営農課の寒河江職員が出演してアピールしました。

宣伝効果と野菜の高騰も影響してか、当JAの詰め放題コーナーは長蛇の列ができ、どのお客様も袋いっぱい野菜を詰めていました。他にも長ネギやブロッコリー・サツマイモといった新鮮野菜も大人気で、売り切れ続出となりました。3日間合計で来場者が6万人、売り上げは対面販売・詰め放題などを合わせて100万円の大会を越える実績となり、石狩産野菜のおいしさをPRできました。

平成30年度 そ菜園芸振興会 反省会開催



11月29日、ふとみ銘泉で平成30年度そ菜園芸振興会反省会を開催しました。
反省会には、札幌みらい中央青果株式会社の大野敏彦取締役と石黒浩部長に出席頂き、今年度の販売状況などについて説明を頂きました。
平成30年は天候に恵まれず、農作物の栽培には苦勞の多い一年となり、各取扱数量も前年産に比べると減少しましたが市場価格が好調だったため、青果物販売高としては昨年を上回る実績となりました。
会員同士で一年を振り返って色々な話をするこ
とができ、翌年に向けての英気を養う貴重な時間
となりました。

■今年度の青果物販売実績(共撰・個撰合計)

品目	JA取扱金額(千円)	JA取扱金額(千円)	前年比(%)
	平成29年11月末実績	平成30年11月末実績	
人参	70,129	161,035	230
大根	85,314	88,811	104
サヤエンドウ	115,341	85,525	74
スナップえんどう	30,529	35,059	115
ブロッコリー	366,035	416,861	114
ミニトマト	166,065	188,606	114
グリーンアスパラ	13,969	10,871	78
メロン	16,967	15,880	94
食用馬鈴薯	117,447	74,348	63
南瓜	3,945	2,478	63
長芋	6,003	5,339	89
スイートコーン	7,144	3,365	47
玉ねぎ	3,993	1,185	30
種子馬鈴薯	13,033	10,979	84
レタス	4,958	4,543	92
ごぼう	5,571	3,820	69
直売所・花など	175,711	179,356	102
販売金額合計	1,202,846	1,304,922	108



▲札幌みらい中央青果(株) 石黒浩部長



▲そ菜園芸振興会 成田和彦会長



▲小池裕明 JAいしかり営農経済委員長



▲札幌みらい中央青果(株) 大野敏彦取締役

心技体 全道の農民剣士が交流



前日には稽古会でさわやかな汗を流し、農産情報交換会では参加選手が持ち寄った地元特産品の抽選会もあり、当JAからもとれのさとオリジナルラーメン・パスタセットを提供し、好評を博しました。
当日は、当JAの佐久間章寿係長を含め、全道から28チームの男女90名が参加して、年齢別5部門の個人戦と団体戦に分かれ、トーナメント戦で気合とともに激しく竹刀を交え迫力ある攻防を展開していました。来年は、十勝での開催予定となっております。多くの方の参加が期待されています。

11月18日、ホクレン旗争奪・第25回全道農民交流剣道大会が石狩市B&G海洋センターで開催され、剣道を愛好する道内の農業者や農業関係職員等が参加して熱戦を繰り広げました。
この大会は農民剣士が鍛錬の成果を競い合い親睦を深めることを目的に平成5年から各地で行われ、石狩市では平成24年に続き2回目の開催となります。開会式では開催地代表として当JAの中村武史代表理事組合長が挨拶を述べました。



▲試合中の佐久間係長(右側)

2019年 営農計画受付日程について

2019年の営農計画受付を、下記日程及び内容により全組合員を対象に実施いたします。

◇ 1号様式該当の組合員

受付日時・場所

地区	受付月日	午前の部 (9:00～12:00)	午後の部 (13:00～17:00)	受付場所
石狩	1月15日(火)	北生振3班(※旧)、石狩個人、大曲、大曲中央	北生振1班(※旧)	本店 営農経済部 会議室
	1月16日(水)	五の沢、高岡第4	北生振2班(※旧)	
	1月17日(木)	高岡第5	美登位	
	1月18日(金)	高岡第3	高岡第1、2	
生振 花畔	1月21日(月)	生振第3、花畔北区、個人(花畔、生振)	花畔中央、上組 樽川、南線協栄	花畔支店 2階 会議室
	1月22日(火)	生振第2	生振第1、7	
	1月23日(水)	花畔農住	生振第6、8	

◇ 2号様式該当の組合員

受付月日	受付時間	対象地区	受付場所
1月15日(火)～ 1月23日(水) <u>※土日を除く</u>	9:00～12:00	石狩地区組合員	本店 金融窓口
	13:00～16:00	花畔・生振地区組合員	花畔支店 金融窓口

◇ クミカンを利用しない組合員

受付月日	受付時間	対象地区	受付場所
1月15日(火)～ 1月18日(金)	9:00～12:00 13:00～17:00	石狩地区組合員	本店 営農経済部 会議室
1月21日(月)～ 1月23日(水)	9:00～12:00 13:00～17:00	花畔・生振地区組合員	花畔支店 2階 会議室

営農計画作成にあたっての留意事項

1. 事前に送付済の営農計画書に必要事項を記入し、認印をお持ちください。
2. 農産物の作付は、土地条件や労働力等を十分に考慮し作成してください。
3. 前年度の営農計画とその実績を点検し、課題点と改善事項に基づいて作成してください。
4. 営農計画書作成の後、収支のバランスが伴わない場合は、再度協議の上で作成いたします。
5. クミカンを利用されていない方は、前年度の収入及び支出がわかる書類(通帳及び決算書)をお持ちください。

※尚、先般ご案内済の経営所得安定対策交付金(産地交付金)の申請に伴う水田における転作(品目・面積)の確認についても営農計画の受付と同日程で実施いたします。

《 お問い合わせ先 》 **営農部営農課 (0133) 66-3344**

不動産所得申告受付日程

日程	地区		受付時間	受付場所
	午前の部	午後の部		
1月16日(水)	石狩地区・花畔北区	花畔中央・上組	午前の部 9:00～12:00	花畔支店 2階 会議室
1月17日(木)	農住	新道・南線協栄・個人	午後の部 13:30～16:00	
1月18日(金)	樽川	生振		
1月19日(土)	その他(※)		9:00～12:00	

※1月19日(土)は予備日です。指定日に来店できない方などに対応させていただきます。

《お問い合わせ先》 [花畔支店金融課 \(0133\) 64-1215](tel:0133641215)

農業所得申告受付日程

2018年営農の締めくくりとなる農業所得申告が下記の通りJA本支店で行われますので、該当の日時を忘れずにご出席ください。

申告期間

2019年2月12日(火)
～3月1日(金)

会場	日程	農事組合別申告受付時間					
		時間	組合名	時間	組合名		
本店	2月12日(火)	9:00～ 12:00	五の沢	13:00～ 17:00	高岡4・高岡5		
	13日(水)		高岡2		高岡3		
	14日(木)		大曲		高岡1		
	15日(金)		北生振2		北生振1・北生振3		
	18日(月)		美登位				
	19日(火)						
花畔支店	20日(水)	9:00～ 12:00	花畔北区	13:00～ 17:00	花畔中央		
	21日(木)		花畔農住		花畔農住・新道		
	22日(金)		上組		南線協栄		
	25日(月)		個人		樽川		
	26日(火)		生振1		生振4・生振5		
	27日(水)						
	28日(木)		9:00～ 12:00		生振8	13:00～ 17:00	生振6
	3月1日(金)				生振2		生振3・生振7

石狩市農協*
農業所得振興会
(旧 農業所得協力委員会)
事務所移転のお知らせ

石狩市農協農業所得振興会(旧農業所得協力委員会)の事務所が花畔支店から本店に移転となりましたので、皆様よろしく願います。

新事務所

石狩市農協本店2階(旧 小会議室)

新電話番号

[\(0133\) 66-3377](tel:0133663377)

2019年 免税軽油申請手続きのお知らせ

2018年12月に皆様へ送付させていただいた書類内容をご確認の上、下記の通りご提出いただきますようお願いいたします。

提出書類

- ・2018年度使用免税軽油受払状況等集計表(受払日報)
- ・2019年度申請に伴う機械台帳変更等報告書
- ・2019年度免税軽油申請受付書類(作付計画書)

提出期日

2019年1月11日(金)
厳守

提出先

対象地区	受付場所
石狩地区	本店資材課
花畔・生振地区	花畔支店金融窓口

《お問い合わせ先》

経済部資材課 [\(0133\) 66-4488](tel:0133664488)

▶▶農業を始めた経緯

元々実家が農家で小学生の頃、毎年夏休みはほとんどジャガイモ掘りの手伝いをしていました。

私は3姉妹の長女だったこともあり、中学生の頃まで心のどこかで「家業を継がなければいけない」という嫌々な気持ちでした。農業は大変、汚い、男の仕事、古い、等のイメージで将来は農業を仕事にしないだろうなと思っていましたが、農業を学べる高校に入り農業の面白さや楽しさを教えてくださった先生との出会いで農業って良いかもという気持ちに変化し、高校卒業から2年後に実家の農業に携わることになりました。

仕事を始めてみると、ジャガイモ掘り以外は右も左も分からず戸惑うことばかりでした。会話の中で飛び交う道具や機械の名前を覚えるのに苦労したり、始めはキャベツとレタスの見分け方も分からない程です。人参の葉が案外フサフサだったり、トウキビが生で食べられることも、長芋からムカゴが採れることも、農業を始めなければ分からなかった発見でした。今では「農業って楽しい！」と思うことばかりです。

▶▶独自ブランドの誕生

YUMEYASAIをプロデュースしたのは、販売先で他の生産者と区別を付けるために始めました。シールとPOPを付けて販売したのがきっかけで生まれました。

『YUMEYASAI』の由来は自分の名前から付けたことと、夢を叶える、という思いを込めています。

私にはYUMEYASAIでたくさんの叶えたい夢があります。「石狩でYUMEYASAIのカフェを経営する」「北海道にはYUMEYASAIがある！と言われる」という大きな夢から「甘いトマトを食べたい」「新しい品種にチャレンジする」「野菜をスムージーにする」など小さな夢までブログに書き記しています。

小さな農家の大きな夢
～YUMEYASAI～

・・・新コーナー開始にあたり・・・

生振地区の波多野夢子さんが、農業の魅力をSNS（インターネットを使って人々と交流できるサービスの総称です）により熱心に情報発信している様子がとても素晴らしく、組合員皆様には是非お伝えたく企画しました。



波多野 夢子
Yumeko Hatano (23)

生振第2組合
波多野正輝さん・真紀子さんの長女
平成29年度に新規親元就農。
家族経営で全体で13ha。
(うち10haが小麦で残りが野菜畑)
独自ブランドYUMEYASAI
をプロデュース。

▶▶SNSでブランドPR

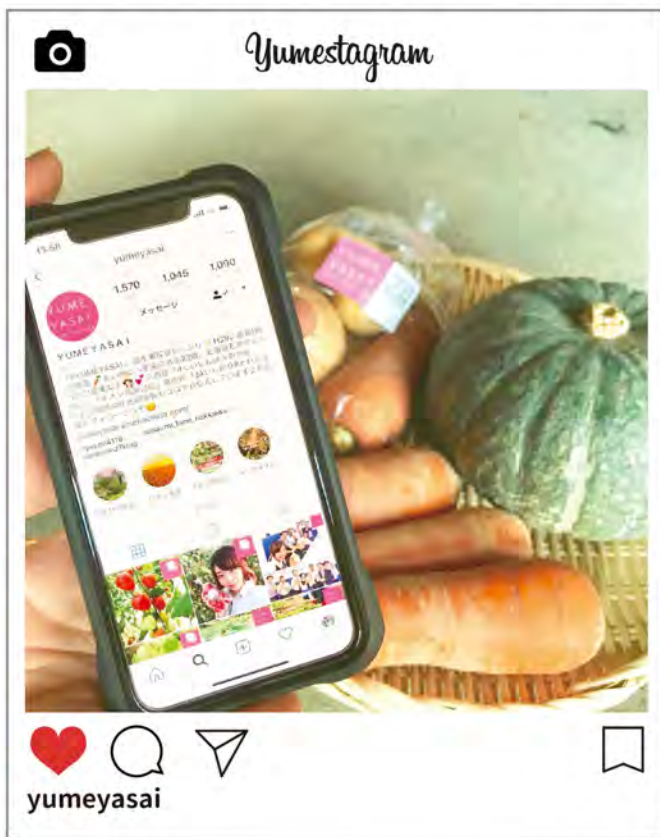
SNSを始めたきっかけは、その日の出荷野菜や普段の農作業について知って貰おうと始めました。対面販売などのイベント情報などもSNSで配信しています。

SNSを始めるまでは、どんな人が野菜を買っていて、どんな風に食べているのか、どんな野菜を求めているのか等全く見えない状態でしたが、使い始めてからお客様と直接やりとりが出来るのが一番の利点です。

「野菜を買いました」「こんな料理にしました」「美味しかった」等たくさん感想を頂いています。他にも「この野菜を食べてみたい」「あの野菜を葉付きで販売して欲しい」等、お客様の要望に合わせて新たな野菜にチャレンジしてみたり、様々な形で野菜を販売してみたりと今まで知らなかった品種やその育て方、売り方をSNSを通して学ぶことも多くなりました。

活用しているSNSは、Instagram、Facebook、Twitter、LINE@、ブログです。始めはそれぞれ使い分けていましたが、今ではInstagramをメインに情報を発信しています。

今後もSNSを活用しYUMEYASAIのブランドPRと農業の楽しさを伝えていこうと思います。



♡ 〇 〓
yumeyasai



YUMEYASAI
アカウントはこちら >> @yumeyasai